

〔沖縄県久米島町〕

魅力あふれるあついい島

「何もなくてただあつい」。

それが、まず、訪れた久米島の印象だった。でも、実際は活気と靈とすばらしい自然があり、気温だけではない人もあついい島だった。

授業中、ふと顔をあげて窓の外を見ると、そこに見えるのは立ち並ぶビルやマンションではなく、青々と広がる海や山である。とても鬱沢だ。島の人々はとても個性的だが、その個性を自然と尊重し合い、一人一人の良さを皆で引き出している。そして何事にも一生懸命で、何より、他人のために何

ミラー

かをしてくれる。そんなあついい島だ。

久米島に来てすぐは、ここで生活していけるか不安で、東京で普通の女子高生になつていけばよかったと少し後悔した。

でも、久米島の良いところをたくさん知り、どんどん好きになつている今、たった一度の高校生生活をここで過ごすことは、とても価値があると思う。

なぜなら、久米島ではいろいろな人とつながることが出来る。そして自分が全く知らなかった世界

だから、より多くのことを感じるし、得ることが出来る。例えば、自分が今までとどれだけ家族に支えられてきたかが分かったし、台風でたびたび停電するため、電気のありがたみもあらためて分かった。

久米島に来てまた四カ月ほどの身ながら、私は島民になれたことに大きな自信と誇りをもっている。そして、小さな新聞記事から始まった大きな出会いに感謝したい。

久米島で過ごす三年間での私の目標は、立派な「島んちゅ」になることだ。

（賢）

久米島高校生からの投稿

本日の「ミラー」は、沖縄県立久米島高校に今春入学した東京都江東区育ちの奥田賢哉子さんから届いた投稿です。

奥田さんは昨年、本紙記事を読んだのがきっかけで、都内で開かれた同校の「県外受験生向け説明会」に行き、夏休みに久米島まで出かけオープンキャンパスなどに参加、進学先として都内の高校を選ばず、「島留学」を決意したそうです。

「21世紀担う人材 離島で育つ」の見出しで、先月二十三日の「読書家たより」でも紹介しましたが、島外からの入学者は今年十人。奥田さんは宮城県東からは七人もいて、埼玉県から進学した男子生徒からも、近く高校生生活を投稿に書いてみたいという声を聞いたとき、連絡を取り合いました。沖縄の離島で学ぶ高校生たちのチャレンジャーからも伝えたいと思っております。

（賢）